

(別表第4)

第三セクター情報公開資料

1 第三セクター名称等											
名称		株式会社 黄桜の里				電話番号		0184-69-2611			
所在地		秋田県由利本荘市東由利老方字畑田28番地				FAX番号		0184-69-2839			
設立年月日		平成7年5月25日				HPアドレス		http://www.ont.ne.jp/~k-yurari/			
2 資本金		96,000千円		市出資金		90,000千円		市出資割合 93.8 %			
3 事業内容		1. 道の駅「東由利」関連施設の管理運営(東由利温泉保養施設黄桜温泉「湯楽里」(温泉、売店)、東由利産地形成促進施設(レストラン)、ファーストフード店等) 2. 道の駅「東由利」に係る受託業務(駐車場、トイレ、休憩施設等の維持管理) 3. 上記に関連する一切の事業									
4 財務状況(令和3年3月31日現在)											
貸借対照表から	項 目	金 額 (千円) 税抜			損益計算書から	項 目	金 額 (千円) 税抜				
		前々年度	前年度	本年度			前々年度	前年度	本年度		
	総資産	46,899	27,268	46,807		総収入(売上高+営業外収益+特別利益)	202,239	190,640	138,869		
	負債	19,221	13,070	42,247		(内市からの補助金・指定管理料)	27,873	28,127	27,972		
	(有利子負債)	0	0	0		経常利益	△ 12,946	△ 13,295	△ 9,454		
	純資産	27,678	14,198	4,560		当期純利益	△ 13,130	△ 13,479	△ 9,639		
	利益剰余金	△ 68,322	△ 81,801	△ 91,440		減価償却前当期利益	△ 13,075	△ 12,572	△ 7,979		
5 役職員の状況(令和3年3月31日現在)											
取締役数(うち市出向者・退職者)				6 (退 0)		正職員数(うち市出向者・退職者)				18 (退 0)	
6 第三セクターへの関与の状況(単位:千円 税込み)											
(1) 公的支援(令和3年3月31日現在)											
項 目		前々年度	前年度	本年度	備考(目的、内容、算出根拠等)						
①補助金(助成金)		0	0	98	コロナウイルス影響緩和対策補助金						
②利子補給		0	0	0							
③税の減免額		0	0	0							
④その他		0	0	0							
小 計		0	0	98							
⑤損失補償契約に伴う金利軽減額		0	0	0							
⑥出資金、低金利貸付等に伴う機会費用		0	0	0							
小 計		0	0	0							
合 計		0	0	98							
【参考】指定管理料(税込)		30,103	30,661	30,661	道の駅周辺施設						
(2) その他(令和3年3月31日現在)											
項 目		前々年度	前年度	本年度							
①損失保証契約に係る債務残高		0	0	0							
②貸付金残高		0	0	0							
③出資金(増資等)		0	0	0							
合 計		0	0	0							
7 添付資料 貸借対照表、損益計算書											

※本資料は、第27期決算報告書(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)に基づいて作成したものである。

決 算 報 告 書

(第 2 7 期)

自 令和 2 年 4 月 1 日

至 令和 3 年 3 月 3 1 日

株式会社 黄桜の里

由利本荘市東由利老方字畑田 2 8 番地

0 1 8 4 - 6 9 - 2 6 1 1

株式会社 黄桜の里 事業報告書

第27期(令和2年度)

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

【全体の実績と当期純損失額について】

コロナ禍による甚大な影響を受け、開業以来初めて売上額が100,000千円を割り込み、94,867千円となりました。26期と比較すると64,889千円の減少であり、月平均では5,407千円の大幅な減少額となっております。26期に続き赤字決算となり、純損失額は9,638千円を計上致しました。こうした中、27期は次の通り黒字化の土台作りに腐心した1年でもありました。

まず、損益分岐点を引き下げるために従業員一丸となって取り組みました。「固定費」につきましては年度当初に「25,997千円」の削減目標を掲げ、人件費を中心に効率化を進め、「28,115千円」の経費削減を達成致しました。また「変動費」につきましては、「真空包装機」の活用が調理場の在庫管理に役立ち、調理原価は33.2%と目標数値を達成することができました。さらに、各部署の発注を総務課に一元化することにより過剰在庫を改善し、27期全体の売上原価率は35.6%となり、限界利益率64.4%を達成しております。過去10年間の平均売上原価率は39.2%、平均限界利益率は60.8%であり、この平均値と比較しても27期の利益率を3.6%改善しております。

この固定費と変動費の改善により、27期の損益分岐点売上は148,050千円に大きく引き下げられました。残念ながらコロナ禍の影響で損益分岐点売上に届いておりませんが、13,479千円の損失を計上した26期の売上、159,641千円を下回る数字でも黒字化が可能となりました。27期も純損失を計上致しましたが、黒字化の下地を整え、赤字体質から脱却できた1年と捉えております。

また、売上向上策であります、コロナ禍の状況下でありましたので27期は情報誌等の有料広告は一切取りやめ、東由利地域へ向けての告知に集中致しました。新聞折込した企画チラシはテイクアウトやお土産発送、各種イベントなど12回を数えております。イベントの集客では、感染対策のため従来の方法での実施が難しく、密にならないように複数回に分けるなど安心安全を第一に実施致しました。この状況下で、お客様は本当に集まっていたのだろうかという不安の中での販売でしたが、不安はすぐに払拭され、地域の厚い応援をいただいて販売目標を達成しております。

(※企画一覧別紙)

26期と比較し約40%激減した27期の売上でありましたが、従来の方法を根本から見直す良い機会でもありました。残念ながら赤字計上となりましたが、様々な企画を積み上げた貴重な1年と認識しております。コロナの影響は現在も続いておりますが、27期の取り組みを28期の土台として進めていき、さらに改善を行い令和3年度こそ黒字化を目指して参ります。

販売費及び一般管理費 対比	(単位千円)		
	27期	26期	増減
給与・日雇賃金・退職金	63,078	79,615	△ 16,537
法定福利費・厚生費	8,954	11,667	△ 2,713
広告宣伝費	112	543	△ 431
リネン費	350	681	△ 331
車両費	1,030	1,846	△ 816
水道光熱費	20,530	26,747	△ 6,217
備品消耗品費	3,436	3,838	△ 402
その他	16,952	17,620	△ 668
合 計	114,442	142,557	△ 28,115

【経営状況】

27期の大命題として、「資金繰りの安定化」は欠かすことのできない大きな課題でありました。平成29年度24期から令和元年度26期は3期連続の赤字決算となっており、25期と26期に至りましては2期連続で13,000千円台の純損失を計上しております。そのため資金繰りは厳しさを増し、26期12月時点での試算では、27期に債務超過も有り得ることが予想されました。

そのため上述した損益分岐点の引き下げが必須課題でありました。しかし27期は厳しい経営状況にコロナ禍が追い打ちをかける状況となり、売上予測は日を追って不透明になって参りました。国の雇用調整助成金を始めとし、あらゆる助成金の申請を行いました。コロナの終息が見えない状況下、取締役会の承認を経て「経営安定資金(コロナ感染症対策枠)」の借入を行うことと致しました。9月と3月の2回に分けて借入を実行しております。

また、売上が激減している弊社に、地域の方々から寄付金を頂いております。改めて地域に支えられていることを強く認識しております。この応援と期待に応えるためにも、今後の経営を安定させ、東由利地域の第3セクターとしての責務を果たして参ります。

(単位円)

【長期借入金】	経営安定資金 (コロナ感染症)危機対策枠	9月	15,000,000
	経営安定資金 (コロナ感染症)危機対策枠	3月	15,000,000
			30,000,000

【27期 コロナ禍による雑収入 内訳】

厚生労働省職業安定局	雇用調整助成金 (4/21～5/20 申請分)	3,165,400
厚生労働省職業安定局	雇用調整助成金 (5/21～6/20 申請分)	957,581
厚生労働省職業安定局	雇用調整助成金 (上記支給調整分)	437,380
県雇用労働支援センター	秋田県雇用維持支援金	200,000
経済産業省	持続化給付金	2,000,000
由利本荘市	4/25～5/16休業 指定管理者損失補填金	5,071,210
由利本荘市	新型コロナウイルス影響対策補助金	98,000
秋田県	休業協力金	300,000
秋田県観光連盟	コロナ対策備品給付金	50,000
由利本荘市商工会	商工会チャレンジ助成金	10,000
寄付金	NPO法人黄桜の宿 様より	200,000
寄付金	泉秀寺 様より	200,000
合計		12,689,571

【各部門別営業報告】

【フロント】部門

27期は6月に入浴料金改訂という大きな決定をし、増収の柱として期待できるものとなりました。値上げ前の5月には、回数券購入の駆け込み需要もあり回数券547冊を販売しております。4月から6月にかけてはコロナ禍の影響により、利用客数は前年対比50%まで落ち込みましたが、徐々に利用客が戻り、7月から9月の3ヶ月間の客数は前年対比75%まで回復致しました。

また、市の温泉施設支援策として打ち出された「温泉利用促進事業」が8月より始まり、10月から12月までの利用客数は26期を超えることができ、3ヶ月間の利用客数は前年対比105%となりました。1月以降は感染再拡大のため停滞しておりましたが、1月から3月の利用客数は前年対比95%まで回復致しました。懸念された料金値上げによる客数減少については、影響が少ないと考えられ、コロナ終息後に利用客数が安定すれば、値上げ効果により今後の売上げ増が見込めます。

入浴料金値上が定着した3月には、年度末の増収策として「入浴回数券特得キャンペーン」を実施しております。目標を200冊として開始致しましたが、予想を上廻る280冊を販売しております。

(単位円)

27期	実績	26期	実績	増減	対比
売上	19,732,862	売上	20,415,109	-682,247	97%
客数	37,683	客数	49,355	-11,672	76%

【 宴会 】部門

コロナ禍により最も大きく影響を受けた部門であります。27期全体の売上減少額は前年比64,531千円となっておりますが、宴会部門が占める減少額は前年比41,540千円に昇り、全体減少額の64%を占めております。政府の「宴会」への制限は27期末まで続き、感染拡大と共に日に日に強くなっております。終息はまだ先になると見られ、現在も売上の見通しはつかない状況です。

しかし私たちは東由利地域の皆様のお力を借りて、3つの企画販売を成功させることができました。①「サマービアホール」②「秋の食味会」③「純米吟醸東由利を楽しむ会」のイベントであります。感染リスクを考慮してお客様を東由利地域に限定し、少人数で複数回開催とするなど新しい形を提案致しました。密になりやすい和室セットを椅子テーブルに切り替え、人との距離を保つ工夫も実施致しました。チケットは目標数を完売し、ご出席いただいた皆様からは感染対策を評価いただき、その後の宴会受注にもつながっております。

また、感染が拡大してきた1月以降もあきらめることなく、企画販売を行いました。金子農産様から食材のご協力をいただき、2月に「フランス鴨しゃぶしゃぶフェア」をレストランと同時開催し、しゃぶしゃぶセットのお持ち帰りを中心に売上を伸ばしました。

今期の宴会部門売上は21,333千円と開業以来最低の数字となりました。しかし、この数字は東由利地域の皆様のお力添えをいただき積み上げた、弊社にとりましては価値ある売上となりました。

(単位円)

27期	実績	26期	実績	増減	対比
売上	21,333,285	売上	62,884,691	-41,551,406	34%
客数	1,676	客数	12,047	-10,371	14%

【 レストラン 】部門

緊急事態宣言が発令された4月から5月は来店客数が極端に減少し、対応策としてテイクアウトの弁当販売を開始致しました。店内飲食に抵抗がある時期の対応策としては有効でありましたが、客数減少には歯止めがかからず、4月から5月の2ヶ月間の売上は前年対比30%まで落ち込みました。その後、秋田県プレミアム飲食券や、由利本荘市プレミアム商品券などの効果により、来店客数が徐々に増加致しました。ランチタイムを中心に、7月から9月の3ヶ月平均売上は前年対比95%まで回復し、さらに10月にはGoToEat食事券や、GoToトラベル「地域共通クーポン券」も加わり下期に向けて期待が高まりました。

また、ランチタイムの誘客策として、「平日ランチタイムコーヒー無料サービス」を実施しております。その効果は7月頃から徐々に始り、7月から3月までの9ヶ月間のランチタイムの客数は、前年対比104%と安定した客数を保持しております。コーヒーサービスの定着化は、各席に設置しているチャイムコールにより、適時にコーヒーを提供できていることが要因のひとつと考えております。飲食に関する注意喚起が全国的に強まる中、感染対策も強化致しました。客席を4割減席し、アクリル板の設置やマスクケースの配布などを行い、安心してご来店いただける環境を整えました。

また、17時以降の売上につきましては、前年対比50%と厳しい状況が続いております。そのためレストランの20時閉店を現在も継続しております。時短営業は経費節減策として有効なため、今後も慎重に判断して参ります。

(単位円)

27期	実績	26期	実績	増減	対比
売上	31,677,805	売上	41,708,493	-10,030,688	76%
客数	22,989	客数	31,117	-8,128	74%

【 売店 】部門

緊急事態宣言発令の中、弊社が最初に取り組んだのは「東京東由利会」様へ向けてのご案内でした。故郷との往来ができない会員様へ向けて、「ひがしゆりふるさと便」のダイレクトメールを発送しております。少しでも東由利を近くに感じていただき、売上につなげたい思いで企画致しました。会長はじめ役員の皆様に趣旨をご理解いただき、6月に全会員様にご案内をお届けすることができました。発送後すぐに反応をいただき、6月は27件の受注をいただいております。

また、7月20日より開始した「由利本荘市トラベルキャンペーン・送料無料特典」が追い風となりました。東由利地域から首都圏への発送も増え、会員様の受注も含め7月の発送件数は37件、8月は47件まで伸ばすことができました。

宴会売上が大きく減少する中、来館者のお土産需要は先細る一方となり、今後はインターネットによる通信販売を拡充するため、免許申請の準備も進めて参ります。

(単位円)

27期	実績	26期	実績	増減	対比
売上	11,103,171	売上	16,826,991	-5,723,820	66%
客数	6,719	客数	11,112	-4,393	60%

【 ファーストフード 】部門

ファーストフード店利用の多くを占める行楽客や、道の駅利用者の動向はコロナ禍により大きく変化し、行楽客の動向指針である「ソフトクリーム」の売上は、前年と比較し36%減少致しました。これは、GWから夏休みお盆時期に緊急事態宣言や感染拡大防止のための県外往来自粛要請があり、ソフトクリーム 氷などの主力品の売上が大きく減少したことが要因であります。

売上の5割近くを行楽客が占めるおやつの駅は、コロナ禍により行楽客が減少し課題である固定客の誘客力不足が露呈した売上となりました。しかし、フランス鴨ハンバーガーを含むテイクアウト商品は前年比128%と売上を伸ばしており、店内の飲食からコロナ対策としてテイクアウトへ移行していることが数字に現れております。令和2年度の総売上は前年より6,554千円減少し、前年対比62%となっておりますが、コロナ禍前の売上目標である、20,000千円と対比すると53%の達成率となり、今後の固定客確保が急務であります。

今後は店内飲食の価格帯、品揃え等を見直し、他飲食店との棲み分けを明確にして、スーパーの新規店参入前に体制を整え令和3年度に臨んで参ります。

(単位円)

27期	実績	26期	実績	増減	対比
売上	10,680,586	売上	17,234,746	-6,554,160	62%
客数	22,971	客数	35,452	-12,481	65%

【 その他 】 「湯楽里・やしお 先得飲食応援チケット」の販売につきまして

NPO法人黄桜の宿様からの寄付金を活用させていただき、3月15日より下記の飲食チケットの販売を開始致しました。

【 先得飲食応援チケット詳細 】

- *販売価格 500円×7枚 3,500円分の飲食券を3,000円で販売
- *ご利用期限 令和4年3月31日
- *販売数 限定 200冊
- *利用箇所 入浴を除く、レストラン ・宴会 ・売店 ・ファーストフード店
- *販売趣旨 チケットを購入する事により、湯楽里を応援いただき今来れなくても感染状況が落ち着けばご来店いただきたいメッセージをお伝えする。

寄付金を頂き、地域の応援に應えるために始めた企画でありました。プレミアム飲食券やGoToEat食事券と差別化するために500円綴りとし、利用期間を1年間設けお求めやすい価格設定と致しました。東由利地域に新聞折り込みチラシで告知を行い、短期での完売を目指しておりましたところ、皆様から応援をいただき約1ヶ月後の4月21日で完売しております。

第1号議案

第27期(令和2年4月1日～令和3年3月31日まで)

決算承認の件

貸借対照表

(令和3年3月31日現在)

(単位:円)税別

資産の部		負債及び純資産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
A 流動資産	36,763,941	流動負債 ①	10,154,928
現金・預金	31,160,430	買掛金	1,989,411
売掛金	495,294	未払法人税等	184,000
たな卸資産	4,726,502	未払費用	7,232,182
その他流動資産	381,715	前受金	0
B 固定資産	9,694,609	預り金	132,835
有形固定資産	163,045	未払消費税	356,500
建物	14,141	金券	260,000
車輛・運搬具	3	固定負債 ②	32,091,600
工具・器具・備品	110,358	D 負債合計 ①+②	42,246,528
建物付属設備	38,543	資本金 ③	96,000,000
一括償却資産	0	資本剰余金 ④	0
無形固定資産	76,440	利益剰余金 ⑤	-91,439,978
投資等	9,455,124	繰越利益剰余金	-91,439,978
出資金	115,000	E 純資産合計 ③～⑤	4,560,022
保険積立金	9,121,510		
保証金	0		
長期前払費用	218,614		
C 繰延資産	348,000		
A+B+C 資産合計	46,806,550	D+E 負債及び純資産合計	46,806,550

損益計算書

(令和2年4月1日～令和3年3月31日まで)

(単位:円)税別

収入		支出	
科 目	金 額	科 目	金 額
売上高	94,867,288	売上原価	33,755,085
経常			
損益		計 ②	33,755,085
の部	①-②	A 売上総利益	61,112,203
		販売費及び一般管理費	114,442,969
		計 ③	114,442,969
	A-③	B 営業利益(損失)	-53,330,766
営業外収益	44,001,433	営業外費用	125,272
(委託料収入 29,604,177)			
計 ④	44,001,433	計 ⑤	125,272
	B+④-⑤	C 経常利益(損失)	-9,454,605
特別利益	108	特別損失	1
損益			
の部	計 ⑥	計 ⑦	1
	C+⑥-⑦	D 税引前当期純利益(損失)	-9,454,498
		E 法人税及び住民税	184,074
	D-E	F 当期純利益(損失)	-9,638,572